

MARUSEN

SPORTS & CULTURE

NO. 3

平成18年度



財団法人
マルセンスポーツ・文化振興財団

CONTENTS

ごあいさつ	1
財団法人の概要	2
役員・評議員名簿	3
平成18年度事業報告	4
第1章 助成事業関係	4
1 スポーツ活動に対する助成	4
2 文化活動に対する助成	5
第2章 表彰事業関係	6
1 マルセン大賞	6
2 マルセンスポーツ賞・文化賞	6
3 マルセン特別賞	7
第3章 イベントの開催	8
1 スポーツ	8
2 文化	8
3 コミュニティライブラリー	8
第4章 ホットコーナー	9
・高橋大輔さん（スケート競技フィギュア）	9
・あさのあつこさん（児童文学）	11
第5章 贈呈式	13
第6章 受賞者からのひとこと	14
1 マルセン大賞	14
2 マルセンスポーツ賞・文化賞	16
3 マルセン特別賞	22
第7章 スポーツ・文化に関する広報・啓発事業	27
1 ホームページの管理	27
2 機関紙「マルセン」の発刊	27
3 お知らせ 生涯学習フェスティバルの開催	28
資 料	
1 事業の記録	29
2 平成17年度収支決算書	31

ごあいさつ

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、お陰さまをもちまして3年目を迎えることが出来ました。このことは一重に皆さま方の温かいお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

さて、世の中はめまぐるしく進展を続けておりますが、平成18年は、子供のいじめ問題に伴っての痛ましい事件が続き、誠に憂慮に堪えません。このことは教育の基である学校は勿論、地域や家庭の問題として取り上げられているところでございます。

このような時、当財団では、県民の皆さまに少しでも明るく元気に暮らせるようにとスポーツ・文化活動に対する活動助成事業や表彰事業・イベント等の開催をとおして微力ながらもお手伝いをさせていただいているところでございます。

このたび、活動の記録として、「マルセン」第3号の発刊の運びとなりました。ご協力を賜りました山陽新聞社をはじめ関係各位に厚く御礼申し上げます。どうか、ご高覧のうえご指摘を賜れば幸いに存じます。今後とも地域の皆さまのスポーツ・文化活動に貢献できますよう更に努力を重ねてまいりますので、引き続き皆さまのご指導及びご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団

理事長 千原 多美子

財団法人の概要

I 概 要

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、平成16年2月20日付けで岡山県教育委員会の許可を得て設立されました。

当財団は、寄附行為第3条で、その目的を「岡山県のスポーツ・文化の振興発展を図るとともに県民が健康で豊かな心を持って生活できる環境・社会の実現」と規程し、その目的達成のため次の5項目

- 1 スポーツ・文化活動に対する助成
 - 2 スポーツ・文化活動に対する表彰
 - 3 スポーツ・文化に関するイベントの開催
 - 4 スポーツ・文化に関する広報啓発育成事業
 - 5 その他目的を達成するために必要な事業
- を定め活動を開始しております。

II 治 革

平成16年 2月27日	財団設立。岡山市富町二丁目4番4号に事務所を設置
平成16年 3月26日	初代理事長に千原多美子就任
平成16年12月14日	第1回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成16年12月23日	第1回スポーツイベント 第23回山陽女子ロードレース大会
平成17年 2月26日	晴れの国おかやま国体へ助成
平成17年 3月11日	第1回文化イベント 岡山フィルハーモニック管弦楽団第26回定期演奏会チケットプレゼントの実施
平成17年 7月14日	晴れの国おかやま国体への助成（2回目）
平成17年 8月 3日	第2回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成18年 1月13日	財団のロゴマークの選考・決定
平成18年 7月21日	第3回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成18年 8月 4日	コミュニティライブラリーの設置（岡山市駅前・旧岡山会館1階） 晴れの国おかやま国体写真展 あの感動をもう一度！ 表彰者紹介コーナー・映像コーナーの設置
平成18年11月 3日	川島 基ピアノリサイタル

役員・評議員名簿

平成19年1月31日付

役員名簿

役職名	氏名	会社名
理 事 長	千原多美子	(株)成通 取締役
常務理事	千原 秀則	(株)センインターナショナル 代表取締役社長
理 事	大林 一友	(株)香川銀行 名誉顧問
//	加計孝太郎	学校法人 加計学園 理事長
//	川崎 誠治	学校法人 川崎学園 副理事長
//	佐々木勝美	(株)山陽新聞社 代表取締役会長
//	高谷 茂男	岡山市長
//	吉岡 洋介	(財)ワコーススポーツ・文化振興財団 理事長
//	千原 行喜	(株)成通 代表取締役社長
監 事	衣笠 和孜	岡山県スポーツ指導者協議会 理事
//	信朝 寛	(株)トマト銀行 非常勤監査役

五十音順 敬称略

評議員名簿

役職名	氏名	会社名
評 議 員	馬越 績	馬越績税理士事務所 所長
//	大倉 徹彦	山陽放送(株) 代表取締役社長
//	北尾 好昭	(株)瀬戸内海放送 役員待遇岡山本社代表
//	高野 葵	岡山県ケーブルテレビ振興協議会会長
//	須賀 勝彌	岡山放送(株) 代表取締役社長
//	砂田 治男	テレビせとうち(株) 代表取締役社長
//	平松 掟	平松弁護士事務所（元日本弁護士連合会副会長）
//	松岡 俊郎	岡山エフエム放送(株) 代表取締役社長
//	藤田 土義	(有)ミスター・メンテナンス 代表取締役社長

五十音順 敬称略

平成18年度 事業報告

第1章

助成事業関係

1 スポーツ活動に対する助成（応募総数/36件 採用件数/10件）

番号	団体等名	活動名	活動目的
1	岡山県硬式空手道連盟	第22回西日本オープン硬式空手道選手権大会	硬式空手道の技術を磨き、健全な人間性の育成を目的とする。
2	岡山リトルシニアチーム	第10回全日本リトル野球協会リトルシニア 関西連盟西部ブロック卒団大会	中学生の硬式野球チームの3年生の卒団を記念し大会を開く
3	倉敷クラブ	ソフトボール	日本ソフトボール協会に教員チームとして登録しており、技術向上を目指して定期的に練習にとりくみ各大会に出場し活躍する。とくに「全国教員ソフトボール選手権大会」へ中国地区代表としての出場を目指す。またソフトボールを通じての選手同士・OBとの親睦を図る。
4	財団法人 岡山県武道振興会	本県の武道の振興と青少年の健全育成を図る	岡山県民特に青少年の間に武道の普及奨励をして、その精神を高揚し、質実剛健の気風を育成し、もって岡山県剣道の発展に寄与すること。
5	津山加茂郷フルマラソン全国大会実行委員会	第14回津山加茂郷フルマラソン全国大会	津山市の歴史・文化を全国に紹介すると共に、選手と市民との交流によって地域の振興に資することを目的として開催しています。
6	TMN遊音JUICY	建部町軟式野球交流大会	軟式野球等スポーツを通じての交流及び地域活性化を図る。
7	西栗倉村スポーツ少年団	レッツ エンジョイ バレーボール ウィズ 岡山シーガルズ	岡山シーガルズの選手に指導をうけ、バレーボールへの関心を高め、競技力の向上を目指す。西栗倉村になじみ深いバレーボール種目の普及・発展を通じて生涯スポーツに親しもうとする雰囲気醸成を図る。
8	北房サッカークラブ	北房サッカークラブ	サッカーの練習及び試合参加。児童の体力向上。
9	マーメイドテニスアカデミー Jr Tennis Team	マーメイドテニスアカデミー Jr Tennis Team	ジュニア育成事業と世界や全国トップレベルに羽ばたくジュニアテニストーナメント
10	柵原西スポーツ少年団	柵原西スポーツ少年団	スポーツを通じ「心・技・体」の健全育成を図る。

2 文化活動に対する助成（応募総数/27件 採用件数/10件）

番号	団体等名	活動名	活動目的
1	あったかハート隊	あったかハートの布絵本づくり	邑久町に古くから伝わる民話を布絵本にしていく。
2	岡山邦楽振興会	全国高校生邦楽コンクール	高校生の邦楽レベルの向上と邦楽の振興発展
3	倉敷市立自然史博物館友の会	恐竜展で親子心のふれあい事業	特別展「体感！ 恐竜ワールド」期間中に実施する各種のイベントを通じて、県民の教養文化の向上に寄与し、豊かな心を醸し出すことを目的とする。
4	倉敷市立美術館	やきものの美 東京国立近代美術館 工芸館名品展	現在地元で活躍する陶芸家や陶芸ファンに充実した鑑賞・研究の機械を提供する。
5	財団法人倉敷民藝館 岡山県民藝協会	岡山県の手仕事調査	既に生産の途絶えてしまったもの、新しく興った活動も含めて現在の生産状況を把握しようとする。手仕事のおかれた現状を見据え、生産や普及にどの様に関わるべきなのかを考察し実行することで、手仕事への理解を深め、生産活動の活発化をはかりたい。
6	さら山時代祭実行委員会	第9回さら山時代祭	津山市佐良山地域の活性化・他地域への情報発信と地域住民の親睦
7	建部はっぽね太鼓	和太鼓	仲間と共に太鼓を楽しみ、地域の活性化に貢献する。
8	成羽古文書研究会	古文書の解読研究	昭和63年から古文書講座を開講し現研究会へと引き継いできた。現在18名の会員の教養の向上と親睦を深めながら生涯教育の一環として活動している。
9	マービーミュージカル in 倉敷	ミュージカルファンタジー「吉備の黒媛」の公演	真備ゆかりの偉人や吉備地方に伝わる昔話をテーマにして、子どもたちからお年寄りまで幅広い層の市民参加を募る。市民が主役・自主運営する総合的な舞台芸術のミュージカル公演によって劇団を地域に根付かせ、地域文化の交流と活性化を図る。
10	ロマン高原かよう総合会館	こども備中神楽伝承教室	国指定重要無形民俗文化財「備中神楽」をこどもたちに確実に継承させる。

1 マルセン大賞

平成17年度スポーツ・文化活動において国際大会・全国大会等で特に優秀な成績・業績を収めた個人または団体を表彰。

【マルセンスポーツ大賞】（副賞／100万円）

●高橋 大輔 [スケート競技フィギュア]

関西大学 学生

全国中学校大会2連覇達成など早くから才能を発揮。2005年スケートアメリカでグランプリシリーズ初優勝。グランプリシリーズでは総合3位。日本人男子初の表彰台に立った。トリノ五輪8位入賞。

【マルセン文化大賞】（副賞／100万円）

●あさの あつこ [児童文学]

平成8年の「バッテリー」から平成17年1月の「バッテリーⅥ」まで、バッテリーシリーズ全6巻がベストセラーとなり、第54回小学館児童出版文化賞受賞。映画も公開。最近では近未来小説や時代小説など作品の幅も広がっている。

2 マルセン賞

平成17年度スポーツ・文化活動において優秀な成績あるいはスポーツ・文化の振興に貢献した個人または団体を表彰。

【マルセンスポーツ賞】（副賞／30万円）

●檜村 正明 [ソフトテニス競技]

就実中学校・高等学校教諭

ソフトテニス部監督として長年にわたり選手の育成に尽力した。中高合わせて全国11冠を達成し、軟庭王国の復活に大いに貢献した。

●古川 興幸 [レスリング競技]

会社 役員

第60回国民体育大会レスリング競技では、成年、少年、15名全員が入賞を果たす。39年間の指導において、世界的な選手を多く育てる。競技の普及、発展のため特に少年レスリング底辺拡大に努めている。

●森政 芳寿 [陸上競技]

興譲館高等学校教諭

神辺東中学校勤務時代から、県陸上競技大会で総合優勝するなど指導力を発揮し、母校、興譲館高校へ赴任後女子陸上部創部とともに、県大会初優勝、以来連続で全国駅伝大会へ出場させる。平成17年度全国女子駅伝大会初優勝を飾るなど卓越した指導力により全国大会等に多くの選手を送り出し、優秀な成績を収める生徒を輩出している。

【マルセン文化賞】（副賞／30万円）

●川島 基 【ピアニスト】

ヨーロッパを中心に、数多くのコンクールに入賞、平成17年に開催された「第10回シューベルト国際ピアノコンクール」で、優勝。国内外での音楽祭にも招かれ幅広く活動し、今後の一層の飛躍が期待される。

●難波 滋 【美術 洋画】

洋画家

平成17年日展会員推挙。会員賞受賞。県在住作家では初の受賞。

日本人にしかできない洋画を目指し、きつねの嫁入りシリーズで昔話の世界を広げるなど独自の作風を追求。次代を担う岡山洋画壇のリーダーとして期待される。

●福石神楽団 【伝統芸能】

備前市福石

この神楽団の獅子舞伝承の特徴は、福石地区住民のうち、数え年16歳から30歳までの男子全員によって継承されていることで、地区男子全員が経験するというかたちは、県下でも稀であり、地域文化振興の場として重要な役割を果たしている。

3 マルセン特別賞

平成17年晴れの国おかやま国体開催を祝し、岡山国体において特に優秀な成績を挙げた団体を表彰。

【マルセン特別賞】（副賞／25万円）

●岡山県剣道連盟 【剣道競技】

成年男子・成年女子・少年男子・少年女子4種目全てにおいて優勝。
国体剣道史上初の快挙を成し遂げた。

●岡山山岳連盟 【山岳競技】

成年女子チーム1位、少年男子チーム1位、少年女子チーム2位となり、天皇杯・皇后杯獲得に貢献した。

●岡山シーガルス 【バレーボール競技】

成年女子6人制優勝（国体4連覇）・9人制2位となり、皇后杯・天皇杯獲得に貢献した。

●関西高等学校ボート部 【ボート競技】

少年舵手クォドプル優勝、少年ダブルスカル優勝、少年シングルスカル7位入賞し、天皇杯獲得に貢献した。

第3章 イベントの開催（協賛）

1 スポーツ

- 第25回山陽女子ロードレース大会 協賛
平成18年12月23日（土・祝）開催
- 第55回備前市えびす駅伝競走大会 協賛
平成19年2月11日（日）開催

2 文化

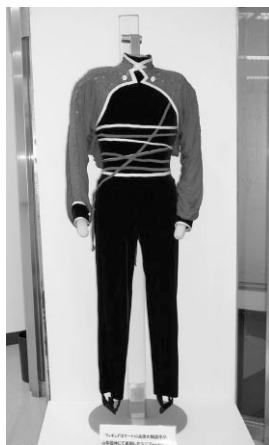
- 「ポスト国体・フラワーロード事業」協賛
- 「第2回 沙美アートフェスト」協賛
平成18年5月13日 開催（沙美小学校体育館）
展覧会（倉敷市立美術館）
平成18年8月8日（火）～13日（日）
- 川島 基 ピアノリサイタル
平成18年11月3日（金・祝） 岡山県立美術館 ホールで開催
招 待 200名

3 コミュニティライブラリーの開設

- 晴れの国 おかやま国体「あの感動をもう一度！」
内 容 競技写真展・表彰者紹介コーナー・映像コーナー
第1期 平成18年8月4日～31日
第2期 平成18年9月1日～10月31日
（水鳥寿思選手・高橋大輔選手の試合着・コスチュームの展示）



水鳥寿思選手ユニフォーム



高橋大輔選手コスチューム



晴れの国おかやま国体写真（提供：岡山県・山陽新聞社）



授賞者関連図書の展示

- 第3期 平成18年11月8日～2月16日
（映像コーナーの設置）

フィギュア男子 日本のエース 高橋大輔 五輪で金を 2010年バンクーバー「集大成に」

激しく上体をくねらせながらも、滑らかな舞いで銀盤に複雑なステップを刻む。見せ場のステップに入ると手拍子が会場を包み、観客を陶酔の世界へと誘う。昨年のトリノ五輪男子フィギュアで8位入賞した高橋大輔（関大、倉敷翠松高出）。日本のエースとして地位を不動のものにした20歳は、2010年のバンクーバー（カナダ）五輪を見据え、世界の「タカハシ」へと羽ばたいていく。

昨年12月のグランプリファイナルで日本人男子最高の2位。そして「自分の中で盛り上がった」という全日本選手権は完ぺきな内容で2連覇を飾り、3月の世界選手権（東京）出場を決めた。「滑れば優勝という実力をつけるため、すべての要素を上げていく」。今年からの目標は、世界のトップクラスを視野に入れてのものだ。

最重要課題とするのが4回転ジャンプ。世界の強豪の多くがプログラムに組み込むこの大技を「決めて当たり前じゃないと勝負にならない」と強調。今季は全日本選手権などで4度成功。さらなる得点アップを狙い、従来のトーループより難易度の高いフリップを練習している。

最近では精神面で大きく成長した姿を見せつけている。12月のNHK杯。ショートプログラム首位で迎えた最終滑走のフリー。トリノ五輪では転倒した冒頭の4回転ジャンプを見事に成功させて波に乗る。その後は、ほぼノーミスの演技を披露し初優勝を飾った。

これまでは肝心な場面で重圧に押しつぶされ、ミスで崩れることが多く「精神面の弱さ」を指摘する声の一部にあった。だが、ここにきて演技だけでなく、会見での受け答えなどからも自信を感じる。「失敗はしたけどトリノのすべてがいい経験になったと思う」。大舞台を踏んで確実にたくましくなったのだ。



たかはし・だいすけ

高橋 大輔

1986年3月、倉敷市生まれ。連島西浦小2年でフィギュアスケートを始め、連島中で全国中学大会2連覇。倉敷翠松高1年の2002年、世界ジュニア選手権優勝。05年、全日本選手権で初優勝し、岡山県出身者として初めて冬季五輪に出場。06年12月、NHK杯初優勝、グランプリファイナル2位、全日本選手権2連覇を果たした。165cm、59kg。関西大3年。

技術の進歩は夏場の練習が下支えする。一昨年から取り組む陸上トレーニングだ。体力アップと同時に、体の軸を強化することで、「世界最高」と評されるステップの精度やジャンプの安定感も高まった。

今年に入ってもユニバーシアードで2連覇し、安定した強さをみせている。実力は今や世界トップクラスと言えるだろう。東京の世界選手権での表彰台は射程圏内で、ベストの演技ができれば頂点も夢ではない。3年後のバンクーバー五輪で金メダルを目指す高橋にとって今年は、実力を養いつつ、着実に結果を出すことで世界最高クラスの地位を不動のものにしたい。

故郷岡山への思いは強い。ウェルサンピア倉敷（倉敷市）、岡山国際スケートリンク（岡山市）の2施設がなければ「競技を続けていなかった」と言い「たくさんの人の支えがあればこそ、ここまで来られた」と感謝の気持ちは忘れない。

スケートを始めた小学生時代を「つらい練習でも楽しむつもりでやったので、しんどいとは思わなかった」と振り返る。後輩には「目標とする人はつukらない方がいい。その人に勝ったら目標がなくなってしまうから。自分が目標とされるようになるつもりで頑張ればいい」とエールを送る。

バンクーバーまであと3年。「集大成の場として、自分が納得し、お客さんが認めてくれる最高の演技をする」と誓う。

金色に輝くメダルを岡山に持ち帰るその日に向け、進化を続けていく。

（本文、写真ともに山陽新聞社提供）



ホットコーナー

自分の可能性、限界を試したい。 1作ごとに新境地、時代小説にも挑戦

オール岡山口ケも話題となっている映画公開（3月）を控え、さらに白熱する「バッテリー」ブームの中、作者・あさのあつこさん（美作市在住）は大ヒットに安住せず、新境地に挑み続けている。常に4、5本の連載を抱えるようになった売れっ子作家の人物と創作に迫る文学展が吉備路文学館（岡山市南方）で4月22日まで開催中（月曜・祝日の翌日休館）。来館したあさのさんに創作への思いを聞いた。

2006年は新刊だけで7冊、文庫を含めれば13冊、と出版ラッシュ。前年同様、大活躍の年となった。今年も1月に児童書「風の館の物語」を発表し、2月には「バッテリー」の名わき役を主人公に描く「ラスト・イニング」を出版予定。相次ぐ執筆依頼にフル回転が続く。

昨年でデビュー15年を迎えた。「バッテリー」以外にも「No.6」「The MANZAI」などヒット作・シリーズをものにしてきたが、「大きなチャンスをいただいている今こそ、自分の可能性、限界を試したい」と、執筆意欲は衰えない。

シリーズ計380万部のベストセラーという評判につられて「バッテリー」シリーズを手にとると、大人は「これが児童書か」と驚くかもしれない。

主人公は尊大にさえ見えるほど自己の在り方を貫く中学野球の天才ピッチャー。かつての児童書に付き物だったはずの、友情や思いやりは見当たらない。ただ野球だけを見詰め、最高の一球を追い求める主人公に、読者は大人になるのと引き換えに失ったものがあると気付く。「私自身、主人公の彼をつかみきれない部分があった」と振り返るのも、定評ある人物造形、描写の行き着いた先が、作者の手さえ離れて生命を持った登場人物だったのだろう。



「自分自身の文学観をひっくり返す作品を書きたい」と話すあさのさん

あさのあつこ

1954年、美作市生まれ。青山学院大で創作サークルに所属し、91年に作家デビュー。96年から2005年にかけての「バッテリー」シリーズ（全6巻）で一躍人気作家に。日本児童文学者協会賞、福武文化奨励賞、マルセン文化大賞などを受賞している。

昨年11月に文庫化された91年のデビュー作「ほたる館物語」から、ストーリーテリングの才は光っていた。あさのさんが生まれ育った湯郷温泉街をモデルにした旅館の少女の物語。ステレオタイプではない、等身大の小学生たちが、生き生きと胸に迫ってくる。

角田光代さん、森絵都さん、佐藤多佳子さんら、児童文学出身作家が、一般書を舞台に活躍している。2005年から一般書を手掛けるあさのさんもその連なりとして名を挙げられるが、ジャンルの多彩さは群を抜く。「大の藤沢周平ファン」と言うだけに「弥勒の月」で時代小説に初挑戦。ミステリー調の「福音の少年」、青春小説「ありふれた風景画」と、児童書から全く異なる分野へも進出、一作ごとに新たな境地を開拓している。

「新作の構想は」と尋ねると、「いつかファンタジーを書きたい」との答えが返ってきた。「見たこともない世界を自分の手でゼロから創造し、どのような社会が築かれ、人間の生き方はどうなるのか。想像するだけで楽しくなってくる」

(本文、写真ともに山陽新聞社提供)



あさのさんは今も故郷の美作市で暮らす。「ここでしか書けない作品に挑み続けたい」＝美作市

第5章 贈呈式

と き 平成18年7月21日（金）午後3時より

ところ ホテルグランヴィア岡山 「クリスタルの間」

式次第

- 1 開式
- 2 挨拶
- 3 表彰状及び副賞贈呈
- 4 受賞者謝辞
- 5 助成金交付式
- 6 来賓祝辞
- 7 閉式





マルセンスポーツ大賞

マルセンスポーツ大賞受賞にあたって

県民の皆様から一生懸命応援頂いたトリノオリンピックは8位に終わってしまい、皆様のご期待に添えなかったこと、日々残念に思っておりました。

そんななか、昨年夏にマルセンスポーツ大賞を頂戴し、大きな励みと自信になりました。

本当にありがとうございました。

自分の中では、トリノを経験したことで、次のバンクーバーオリンピックへの目標が明確になり、今シーズンはその目標への大事なスタートであると位置づけ、各試合に臨みました。

一つ一つが厳しい戦いでしたが、トリノでの貴重な経験と、自分の中で芽ばえ始めた以前とは違った自信とが相まって、良い結果を残すことが出来ました。

しかし、ここで気をゆるめず、この3月、東京で行なわれる世界選手権に向け、さらに自分を高め、もっと進歩した姿を皆様にお見せするつもりであります。

これからも応援宜しく願い申し上げます。

高橋 大輔

マルセン文化大賞



マルセン文化大賞受賞にあたって

このたびは、マルセン文化大賞をいただく事ができ、この上ない幸せを感じております。

授賞式の挨拶でも、ぼそぼそと語らせていただきましたが、「書く」ことはひどく孤独な作業で、独り机に向かい、物語などを紡いでおりますと、それが、どんな楽しいものであったとしても、どこかで辛くなり、わあっと叫びたくなります。大仰な言い方ですが、荒涼とした砂漠が、島影一つない海原にぼつんと独り取り残されたような、寂寥とした思いです。いつもでは、ありませんが、時々、そんな孤独感、寂寥感に苛まれます。

受賞のお知らせをいただいたときも、丁度、そんな情けない思いにおろおろとうろたえておりました。それが、受賞のお電話で、ふっと軽くなったのです。げんきと言えば、げんきなものですよ。

でも、独りじゃない。誰かが見ていてくれる、支えていてくれる、励ましていてくれると感じる事は涼やかな風が吹き抜けていくような爽快感と解放感をわたしに与えてくれました。

感謝しております。ほんとうに、強く、美しい支えとなりました。これからも、書き続けていく、そのエネルギーをいただいたのだと思っております。

懇親会するとき、隣に座られた高橋大輔選手のお顔がとても小さいのにびっくりしました。カッコよかったです。世界を相手に闘う青年の強靱な精神と繊細な思いを教えていただきました。これも、わたしにとって、大きな収穫でした。

重ねて、御礼申し上げます。ほんとうに、ありがとうございました。

あさの あつこ



マルセンスポーツ賞

受賞にあたって

この度、マルセンスポーツ賞を拝受し大変な光栄と感動し関係各位に感謝の気持ちでいっぱいです。私のような者が栄誉ある賞を頂けるとは夢にも思っておりませんでしたので、今以上に身の引き締まる思いがしております。ただ長い間指導者として私を支えてくれたのは、私を信じてついて来てくれた部員達の熱意でした。この生徒達と大きな夢を持ち一緒に頑張ってみようという思いだけでした。

若くして指導者となった時希望と不安を抱きながら何もわからず無我夢中の時が流れました。自分自身の計画性もなく、女子の指導に対して具体的な知識も抱負もあったわけではありません。「とにかく燃えてやるのみ」と自分にも生徒にも言い聞かせ練習もよくやりました。まず手始めに「規律」「クラブの輪」「己に勝て」心技体の充実こそ最大の勝利だということを部員に徹底させました。何事も形から作っていくことが大事だと思っていましたので…。そして指導のむずかしさに色々と疑問を持ちかけた頃「男子は手の込んだ教え方をしなくてもいいだろうが女子は違う」と感じました。どうも進歩が遅い。大会へ出場してもリズムが乱れると大きく崩れる。攻めるよりもむしろ守りのテニスの方が強いのではないか…。この頃男子と女子の指導の違いということにもやっと気が付いたというわけです。

昨年全国大会で高校生は夢の三冠達成（春の選抜、インターハイ、国体）でした。また中学生においても全日本中学校、団体、個人優勝など11のタイトルを獲得いたしました。どの大会においても形には見えない素晴らしいドラマを展開し、一戦一戦生徒達がたくましく成長していく姿を見ることができました。またその影で目立つことなくこつこつ練習に精進したすべての部員達も同じでした。この度の私の受賞に対し関係各位に感謝を申し上げると共に、マルセンスポーツ・文化振興財団の発展を祈念し今後共よろしくお願い致します。

ほんとうにありがとうございました。

就実高等学校ソフトテニス部
監督 檜村 正明

マルセンスポーツ賞



40年の思いを寄せて

私は昭和37年第17回岡山国体の翌年に日本体育大学に入学しました。大学生活は口では言い表せない厳しい4年間でした。今では日本一の座を守っていますが、その当時、日本体育大学はあまりレスリングが強い大学ではありませんでした。その時代の大学は学生運動が盛んで、日本全国の大学が学生運動の真っ最中でありそれをさけて、学生運動をやっていない大学へ進む運動部選手が多かったようにも思えます。これ幸いと思い優秀な選手を勧誘する大学も多かった。我が大学もその一つでありその年は全国からレスリング経験者が25人新入生として迎えられました。

日本は翌年東京オリンピックを迎えようとしていたし国を挙げてスポーツ熱は高まっていたのです。わが大学の運動部は一石二鳥といえたでしょう。

私は大学では全てのことで鍛えられ一回りも二回りも大きくなり、昭和42年、大学を卒業して岡山日大高校に教員として赴任し高校の教壇に立つことになりました。

柔道部とレスリング部の顧問になり両方指導していましたがどうしてもレスリングが専門ということで徐々に柔道から離れていきました。

レスリング部だけの指導者になってからいろいろ苦労もありました。練習会場、レスリングマットの整備、部員の勧誘、試合の目標等。そうしていると学校が危機に陥り部員は少なくなり廃部になりかけたこともあり選手を集めるには、自宅を改造して合宿所にして部員と寝食を共にするしかないと思い昭和49年4月から本格的に指導に取り組みしました。

ここで又問題が起こりました。競技成績を上げるためには厳しい練習、厳しくすれば部員は逃げるし、イタチごっこの毎日でした。気持ちを休める暇もなかった。毎日が緊張の連続でした。そのがんばりがあり37年間の監督生活の中で全国大会学校対抗戦30回出場、個人対抗戦35回という大記録を確立することができました。

また平成16年岡山県での2回目の全国高校総体、平成17年第60回国民体育大会等二大イベントを成し遂げ、国体に於いては念願の初優勝することが出来、私のレスリング40年の歴史に花を添えてくれました。

今まで私を陰ながら支えてくださった関係各位の方々に御礼を申し上げます。

今後は、ジュニア育成に力を注ぎ、レスリングの底辺の拡大と健康で元氣な少年の活躍に目を向けていきたいと思っています。

岡山県レスリング協会 理事長 古川 興幸



マルセンスポーツ賞

受賞にあたって

第17回全国高等学校駅伝競走大会において優勝し、その功績を認めてくださいましたおかげで、この度、マルセンスポーツ賞を受賞いたしました。このような栄に浴することができましたのも、偏に皆様のおかげと感謝いたしております。

思えば興譲館高等学校陸上競技部女子チームの監督に就任して、実に7年の歳月が過ぎました。

一口に7年とは申しまして、いろいろなことがありました。振り返って見ますと、県高校駅伝初出場で初優勝を飾った1年目は私にとってたいへん意義深い年でした。中学校を退職し、高校へ赴任したわけですが、舞台が一つ広く大きくなり、経験することすべてが初めてという環境で、多くのことを学び、体験することができました。創部当初から多くの方々にバックアップしていただきました。温かい支援に恵まれたなかで、私は、「感謝の心」を学び、選手たちは伸び伸びと目標に向かって練習することができました。それから7連覇した後に全国大会で悲願の初優勝をしたわけですが、道のりは決して平坦なものではありませんでした。苦しかった時、楽しかった時、悩んだ時、いろいろとありました。しかし、そのすべてが私の「財産」になったと思います。選手たちもこの7年間、苦しい時、不安な時、伸び悩みの時等いろいろとありました。

しかし、自分たちが決めた目標を達成するため、ひた向きに、キャプテンを中心によくまとまり、常に挑戦する心を忘れることなく練習に取り組んでくれました。選手たちのおかげでこのように表彰を受けることができたのです。監督として、感謝の気持ちでいっぱいです。私自身、この7年間の体験が必ずこれからの原動力になってくれるものと確信しています。指導力の至らなさは多々ありますが、選手とともに大きな目標を達成できるよう、チーム一丸となって練習に、大会に取り組んでいきたいと思っておりますので、これからも選手共々よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、受賞に際しましては皆様にお世話になり、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げ、挨拶とさせていただきます。

興譲館高等学校 森政 芳寿

マルセン文化賞



永遠なる音

この度は栄えある「マルセン文化賞」を頂き、大変うれしく思っています。

私が最初にピアノに触れてからもう20年以上が経過しました。その間、色んな体験や経験を積みながら、私のピアノも徐々に変化していき、ついには職業として「ピアニスト」を選択するまでに至ってしまいました。

確かにピアニストは大変な職業です。沢山の練習を積み、精神がすり減るほど本番前は緊張し、私も舞台に上がるのが怖いと思ったことが良くあります。しかし、いつもピアノの前に座ると、それまでのイライラや緊張が取れ、心が落ちついてきて、だんだんと清々しい気持ちになります。それは、私が最初にピアノに触れて以来、ずっと変わっていない感覚でしょう。ピアノは私にとって精神安定剤のような役割で、何かピアノ以外の事で悩んでいる時も、ピアノに向かうと心が落ち着いてきます。

世間ではよく「ピアニストは努力が肝心」とか言われます。しかし、私は今も、これまでも「努力」をしていたという実感がありません。「ピアノが好きで好きでたまらない」と思えば、それが皆さんの言う「努力」とは決して言わないでしょう。

私は、ピアノに向かって練習している時、その先にあるものを見たくて、体験したくて、その興味だけで何時間も練習に集中でき、そこに辿り着いたときは至福のよろこびを感じます。にわかに練習しただけの音楽は、人はそこから何の印象も受けることはありません。

音楽は“時間の芸術”であります。触ったり、見たりすることは出来ませんが、時間をかけ、情熱を注ぎ、そこから出てきた音楽は平面的ではなく、立体的になり、見えないはずの情景が見えてきたり、感じることもないはずの空気を感じることができるようになります。「音を形に変えていく」事が今の私にとって最大の関心事であり、最も情熱を注ぐことであります。そして辿り着いた“音”が人の心に響いた時、それは永遠に消えることのない形として心の中に残っていくことでしょう。

ピアニスト 川島 基

マルセン文化賞



マルセン文化賞受賞にあたり

この度、第3回マルセン文化賞を受賞にあたり、選考にあたった諸先生方、及び関係の方々に深く感謝の念を申し上げます。

受賞作品の「逍遙」シリーズをはじめて約15年になる。「逍遙」シリーズには瀬戸の海、蓮華・良寛和尚・出雲崎・円通寺、月と、そして昔話シリーズ「狐の嫁入り」となる。

「逍遙」を国語辞典で引用すると、「そぞろあるき」「散歩」「気ままにあちこち歩きまわること」とある。

良寛和尚の漢詩での「逍遙」は「気ままにあちこち歩きまわる」情景が浮かんでくるのは私だけであろうか？

良寛和尚になったつもりで、円通寺・出雲崎・佐渡島・四国遍路等々を歩きまわり、作品制作の糸口を探す日々であり、一時期は、熱に侵された子供のように良寛の書籍を買い漁り、何度も読み返すのが日課であった。

幼少の頃から、「日本の言葉」に大変に関心を持ち、「十三夜」「水無月」「神無月」「十六夜」「十八夜」「花鳥風月」他、「逍遙」シリーズに題名としてでてはいるが、まだまだ「日本の言葉」の勉強と精進が必要である。

今後、画家として、どのような展開があるかは不明であるが、日本人としての日本を描き、少しでも「良寛和尚」に近づきたいと、月、星の見える天窓のあるアトリエで画家人生の「逍遙」を描いていきたいものである。

難波 滋

マルセン文化賞

受賞を受けて

今回マルセンスポーツ・文化振興財団より、伝統芸能の伝承と地域文化振興の文化表彰を受け、神楽団員又神楽後援会員、地域の皆さんから温かい声援をいただきました。

岡山県の東の端の、小さな地域の神楽獅子舞が表舞台に出て行くには、未だに難しいこともあり、神楽獅子舞も昔より、門外不出と言われつづけて、地域より他で獅子舞を舞うことはあまりなかったが、この頃になってやっと、イベント以外なら、地域を出て活動してよいと認められ、県、市の要請に応えることが出来るようになり、活動の範囲が広がったところ、今回の受賞は、私たち若い団員には大変感激であります。

大正9年に神楽団の規約が作られていますが、この中の規約に、
第三条 青年団員ハ美風及団結力才養成スルコト。

第四条 青年団員ハ本獅子舞才永年維持スル義務アルモノトス。

この大正の規約を今に合わせて、コミュニケーションと団結そして地域文化芸能を大切にし、今後よりいっそう活動し、いつか海外文化交流に参加出来るように、と同時に現在地域公民館の、片隅を借りて稽古をしているので、太鼓の大きな音、横笛の音などが、隣家の人に我慢をして頂いている状態なので、早く独立した屋内稽古場が出来るように努力したい。

今回の受賞が、大きな地域の活性化となり、平成18年の10月の秋祭りでは多くのお客様が来て頂き、受賞の発表、副賞での装飾品等の購入などを報告し、地域の皆さんの厚い拍手をいただきました。

表彰に対し財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団に厚く御礼申し上げます。

福石神楽団 宰領 市原 真一



マルセン特別賞

受賞にあたって

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団よりマルセン特別賞をいただき大変ありがとうございます。岡山県剣道連盟としてこの上ない名誉と誠におめでたいことと感謝申し上げます。

第60回晴れの国おかやま国体が開催されます年の4月29日に第53回全日本都道府県剣道優勝大会が大阪市中央体育館で行われました。国体を前に何とか幸先の良いスタートを切りたいと選手達は一丸となってよく頑張ってくれました。その甲斐あって優勝することができました。それも2年連続優勝という快挙でした。

国体の剣道競技においては、少年男子・女子および成年男子・女子と4種目において、全種目完全制覇という国体の剣道競技始まって以来の快挙を成し遂げました。

振り返って見ますれば、岡山国体目指して、10年前から少年・少女を育成してきました。長くもあり、短くもありでしたが、地道な道のりでした。

この快挙ができたのは、選手たちが頑張ってくれたのは勿論のことですが、それを支えてくれた指導者・先輩・後輩そして家庭と大会に関係するありとあらゆる人々のご支援の賜物だと感謝申し上げます。

昨今の社会情勢に目を向けますと、少年犯罪等の増加は憂慮に堪えません。今こそ剣道の精神が青少年の健全育成を目指し、人としての尊厳を取り戻すときと考えております。

古来剣道は日本固有の伝統文化として、日本人の精神の規範の一端として、大きな役割を担ってきました。このような剣道を剣道連盟として伝承していかなければと思っています。

岡山県剣道連盟





マルセン特別賞

感 謝

このたびは、栄ある財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団「マルセン特別賞」の栄によくし、誠にありがとうございました。岡山県山岳連盟会員一同心から感謝いたしますとともに、この栄光をいつまでも心にとどめて参りたいと存じております。

昨年の『晴れの国おかやま国体』山岳競技では、関係者のご支援、ご協力により輝かしい結果を残す事ができ、ただただ感謝の気持ちでいっぱいであります。そして大会の運営に於きましても、全国から参加された選手、監督その他の多くの来場者から、心に残る大会であったと賛辞を頂き、私にとりまして生涯で最高の栄誉であります。その上「マルセン特別賞」まで頂戴いたしこの上ない喜びであります。

登山界も昨今の社会情勢を反映して、中高年登山者の増加にともない遭難事故也多発いたしております。登山の形態も変わってきておりますが、山岳連盟といたしましても登山者に対し遭難事故防止の啓発を行いながら、自然に親しみ、長く登山を楽しんでほしいと願っております。

また、登山者が増加するにつれ自然が壊されております。登山道もかつては、人一人が歩けるぐらいの細い山道であったのが、大勢の登山者が押しかけ周りを踏み荒らし、だんだんと道幅も広がっており目を覆いたくなります。このような観点から自然保護活動にも取り組み、春季、秋季の2回県内の山の清掃登山を行うとともに自然の大切さを訴えているところであります。

他方、若い登山者は激減いたしておりますが、山岳競技における選手の発掘、養成を行い次の世代につなげて参りたいと考えております。頂戴いたしました賞金をジュニアの育成に役立たせていただく所存であります。

最後になりましたが、財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団のますますの御発展を祈念申し上げ、心から御礼申し上げます。

岡山県山岳連盟 会長 岡本 忠良



マルセン特別賞

受賞にあたって

この度の「マルセン特別賞受賞」にあたり、国体は勿論、スポーツ文化の発展に向け活動しておられる貴財団からの表彰を、大変嬉しく光栄に思っております。

地元岡山で迎える史上初となる4連覇への挑戦。今改めて、岡山に活動拠点を移した私達を温かく受け入れてくださった事、国体成功に向け活動しておられる皆様のお姿を思い起こし、感謝の気持ちを「皆様との力の結集の場として最高の結果を残そう」と、日々頑張ってきた事を感慨深く思い返しました。県全体を挙げての熱い応援と、バレーボールを初めて観戦される方。そんな皆様と試合を重ねる毎に心が一つになり「心から感動した」というお言葉に国体成功の全てが凝縮されていたように思います。また、おかげ様をもちまして、10月1日～4日まで兵庫県で行われました「のじぎく国体」では、五連覇を達成することができました。変わらぬ温かいご声援を送って下さった皆様方に、心から感謝申し上げます。

現在は、「シーガルズ」から「岡山シーガルズ」とチーム名を変更し活動を続けております。私共と致しましても、ジュニアスクールや、トップアスリート派遣事業等に積極的に参加し、一人でも多くの方々に感動することの素晴らしさを伝え、トップリーグ、或いは世界で通用する選手を育てていくことが、岡山県民の皆様への恩返しであると考えております。

岡山県発展の為に、そして国体を通し広がった地元の皆様との“和の集結”で、Vリーグ制覇を目指しチーム一同飛躍していきたいと思っています。これからも温かいご声援の程宜しくお願い致します。

岡山シーガルズ 主将 野村 まり



マルセン特別賞



晴れの国 おかやま国体『思えば叶う 夢実現』

岡山国体が終わって早一週間経ちました。OB・父兄そして関西ファンの皆様、本当に、ありがとうございました。皆様のおかげで少年男子の種目において2種目制覇（ダブル・クォド）、少年男子総合第1位の偉業を達成することが出来ました。この2種目制覇というのは、H9（大阪国体）に福井県がやっていますが、“単独チーム”が2種目制覇するというのは史上初のことだと思います。本当に嬉しく思います。支えてくれた全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。9月13日（火）午前11時10分のダブルの島根県（高校JAPAN）を抑えてのブッチぎりのレース、続いて11時50分のクォドの歓喜のゴール。私は、百間川の土手の上で涙しながら何度もガッツポーズをして叫んでました。過去に数回『日本一』をGetして涙したことはありますが、今回は違ってました。いろんな想いが私の中で大爆発しました。

この4、5年間、岡山国体前ということで私には正月以外殆ど休みというものはありませんでした。（正月もOB会が…）常々、何でもここまでしなければならないのか？国体なんて来なければいいのに！？ 練習会・合宿なんて無ければいいのに！ 俺のペースじゃない！！ といったネガティブなことばかり頭の中で思っていました。また毎年9月の国体で引退していく3年生を羨ましく思い、「俺も引退したい！ 自分に終わりはないのか？

あ～逃げたい！！」とさえ思っていました。しかし数日後には次なる目標をもって『必殺仕事人』になって熱く生徒に語っている自分自身をおかしくも悲しく感じた事もありました。

昨年、埼玉国体で優勝した時、その時点でかなりのプレッシャーを感じていました。国体の閉会式で会場のスクリーンに『来年は岡山で会いましょう』と映し出された時、なぜか私の脚が震えていました。マスコミにはインタビューで「この結果が来年の岡山と逆であつたらいいのに…」といった情けない事を言ったのを覚えています。2連覇できるのか？ というプレッシャー以外に、次の新しいメンバーで、それも『岡山』の地で大声援の中で県民の期待に応えられるだろうか？ という二重のプレッシャーが掛かっていました。だから、昨秋の国体後にそういったことから来るストレス・心身疲労でメニエル病になって入院したのかもしれない。ボート部には顧問が私一人だけで誰にも悩みを打ち明けられませんでした。

今回の国体は、私にとって『大バクチ』でした。多分、誰もがあのメンバー構成を見た時、聞いた時、驚いたと思います。優勝した春の選抜・朝日レガッタ、準優勝した夏のインハイのメンバー構成と全く違うのです。本校には、今年の高校日本代表及び代表候補が4名います。当初は、この4名をクォドで揃えたらきっと勝てるだろうという計算がありました。多数の人がそう思っていたのではないのでしょうか？ しかし、国体は『優勝』することも目的だが、天皇杯獲得のため得点を獲ることも目的なのです。それにダブルもシングルも『岡山選抜』なのです。岡山選抜であるゆえ恥ずかしいことは出来ない、全てNo.1とOnly Oneを狙う！ そして皆

を“ヒーロー”にさせたい!! 既存の殻を破り、練習からワクワク…ドキドキ…した新しい挑戦をし、『NEW KANZEI TEAM』を創ろうと心に決めました。(しかし、心のどこかで…勝てば永遠のスーパーヒーロー、負ければ大アホにされる?! と思っていたことも事実です。)

会場には、連日大勢の人々が観戦にこられました。特に目立ったのが、700m付近の関西サポーターの集団でした。多い時で約400名の関西サポーターが応援に来ていたと思います。

それ以外にも地元の人々、操南中学の1年団全クラス、大安寺西町内会（シングルの応援）、関西高校の校長・副校長・教頭・先生、私の家族・両親までもが応援に駆けつけていました。また、陸上スタッフには、ボート協会をはじめ沢山のボート部OB・大学生・高校生が役員・補助員として朝早くから夜遅くまで大会をサポートしてくれました。そういった方々に対して感謝の気持ちでいっぱい…『結果=感動』でお返ししたいと思っていました。

決勝の前夜、私はミーティングの時、生徒の前で感極まって泣いてしまいました。多分、試合前日のミーティングで泣いてしまったのは初めてではないでしょうか? いつものように翌日のタイムテーブルを簡単に説明したその後…『いよいよ明日は、ラストレース。勝敗なんてどうでもエエ〜。スピードだけを求めて思い切ってやれ! 計算したらアカン!』といった瞬間、涙がボロボロこぼれてきました。『明日言うかもしれないけど…おめーら、ほんまにええチームやった! 特に3年生、よくここまでよう頑張った! 苦しかったろう? 辛かったろう? 昨年よりずっと厳しい練習を課してきた。ムチャな事もしてきた。俺も分かっていた。いや、俺以上におめーらが感じていたはずや! 許せ。でも、ほんまによう辛抱して付いてきてくれた。ありがとう。』と…。その後は、もう言葉になりませんでした。(今から思えば恥ずかしい…)

決勝の歓喜のゴールの瞬間、以上のことが私の頭の中で大爆発したのです。決勝のゴール後、関西の校歌を泣きながら歌い、船台に戻ってきた選手を私は一人一人抱きしめてました。そして部員全員で人差し指を高らかに上げて『一番ポーズ』で勝利の雄叫びをあげていました。その後、私は部員全員に持ち上げられて船台から百間川に放り込まれました。そして次々と選手たちが自ら百間川に…ドボ〜ンしました。まさに日本一のスーパーダイブでした。(実はその時、百間川の名水を少し飲んでしまいました。体に触れた百間川の水はなんだかヌルヌルしていたような…??)

昨年の埼玉国体では、戸田で頑張っている二十数名の教え子の前で、今年は関西TEAMを支えてくれた現役部員・OB・父兄・OB父兄・関西ファンの前で『日本一』を達成し、『日本一の感動』を共有できたことを心より嬉しく思います。最後に…



**We did not give up.
We are achievers.**

私は本当に幸せ者です。ありがとうございました。

関西高等学校 ボート部顧問 森川 幸夫

1 ホームページの管理



<http://www.marusen-zaidan.or.jp/>

平成18年12月11日 リニューアル

2 機関紙「マルセン」の発行

第19回 全国生涯学習フェスティバル



「まなびピア」とは、**学び**と
ユートピア（理想郷）を合わせた造語です。

全国生涯学習フェスティバルとは

広く国民一般に対し生涯学習に係る活動を実践する場を全国的な規模で提供することにより、国民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるとともに、学習活動への参加を促進し、もって生涯学習の一層の振興に資することを目的に開催します。

- 1 **主 催** 「第19回全国生涯学習フェスティバル実行委員会」（会長 岡山県知事）
（文部科学省、岡山県・市町村、関係団体等により構成）
- 2 **開催期間** 平成19年11月2日(金)～6日(火)
- 3 **会 場** 主会場 **桃太郎アリーナ**を中心とした**岡山県総合グラウンド**
総合開会式：岡山シンフォニーホール
総合閉会式：倉敷市芸文館
市町村会場：**県下全市町村（27会場）**



マナビィ

4 事業内容

- (1) 第19回全国生涯学習フェスティバル実行委員会による主催事業
・総合開会式、閉会式、生涯学習見本市、体験広場、ステージ、講演会、シンポジウム等
- (2) 市町村実行委員会による主催事業
・これまで市町村が取り組んできた生涯学習の成果を県内外に情報発信します。
- (3) 参加事業（各実行委員会が提供する会場において、団体・企業等が自主的に運営する事業）
- (4) 協賛事業（開催期間を含む平成19年9月1日～12月9日までの生涯学習関連事業）

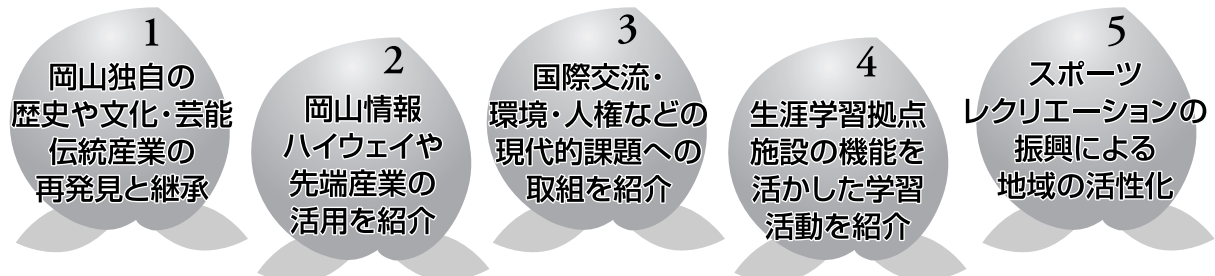
5 基本的な考え方・事業展開方針

「生涯学習社会☆おかやま」の実現に向けて、
県民総参加のフェスティバルを目指します。

岡山発5つのまナビスタイルを全国に向けて発信します



岡山県マスコットももっち



事業の記録

1 表彰の記録

第2回 贈呈式（ホテルグランヴィア岡山）

月日	区分	賞	氏名	種別
17.8.3	スポーツ	大 賞	水鳥 寿思	体操競技
		賞	石本 直樹	ベンチプレス競技
			諸見里 しのぶ	ゴルフ競技
			横山 純子	陸上競技 監督
	文 化	大 賞	小川 洋子	文芸 小説
		賞	石田 宗之	美術 洋画
			はやし田植え保存会	無形文化財 伝統芸能
			濱坂 渉	美術 彫刻

第1回 贈呈式（ホテルグランヴィア岡山）

月日	区分	賞	氏名	種別
16.12.14	スポーツ	大 賞	武富 豊	陸上競技 監督
		賞	土井 美智江	水泳競技（マスターズ）
			藤原 佳市	体操競技 監督
			柳井 清志	ソフトボール競技 監督
	文 化	大 賞	高橋 秀	現代美術
		賞	栗井春日歌舞伎保存会	伝統芸能
			岡山フィルハーモニック管弦楽団	音楽
			松本 和将	ピアニスト

2 助成の記録

第2回 交付式

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額
17.8.3	スポーツ	100万円	34	10	988,640円
	文 化	100万円	24	10	1,000,000円

晴れの国おかやま国体 100万円
 合計 21件 2,988,640円
 累計 41件 5,841,640円

第1回 交付式

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額
16.12.14	スポーツ	100万円	31	10	1,000,000円
	文 化	100万円	15	9	853,000円

晴れの国おかやま国体 100万円
合計 20件 2,853,000円

3 イベントの記録（協賛を含む）

年度	区分	イベント名	実施日	応募数	決定数	金額
17	スポーツ	岡山・桃太郎アリーナ落成記念 「オリンピックメダリスト体操競技 演技会」	17. 6. 5	—	—	21万円
		第24回 山陽女子ロードレース 大会	17.12.23	—	—	105万円
		第54回備前市えびす駅伝競走大会	18. 2.11	—	—	10万円
	文 化	松本和将「ベートーヴェン3大協 奏曲のタベ」 (岡山シンフォニーホール)	17. 4.30	710件	50組 (100名)	30万円
		岡山デジタルミュージアム開館 記念「新シルクロード展」	17.10.21 ~ 17.12.18	452件	100名	9万円
		あそべる! おもちゃ展 (岡山デジタルミュージアム)	18. 2.17 ~ 18. 2.22	—	—	10万円
16	スポーツ	第23回 山陽女子ロードレース 大会	16.12.23	—	—	105万円
	文 化	岡山フィルハーモニック管弦楽団 第26回定期演奏会	17. 3.11	710件	50組 (100名)	36万円

平成17年度収支決算書

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

1 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額
基本財産運用収入	100,000	30,000
寄付金収入	30,000,000	31,799,810
雑収入	0	244
繰越金	5,500,000	14,707,153
収入合計	35,600,000	46,537,207

2 支出の部

科目	予算額	決算額
事業費	9,500,000	9,656,254
管理費	4,475,000	1,521,554
特定預金支出	20,000,000	20,000,000
予備費	1,625,000	0
支出合計	35,600,000	31,177,808

3 次年度繰越金

15,359,399円

貸借対照表

(平成18年 3月31日 現在)

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
流動資産合計		16,392,826	
2 固定資産			
基本財産合計	100,000,000		
その他固定資産合計	20,000,000		
固定資産合計		120,000,000	
資産合計			136,392,826
II 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計		1,033,427	
2 固定負債			
固定負債合計			
負債合計			1,033,427
III 正味財産の部			
正味財産			135,359,399
(うち基本財産)			(100,000,000)
(うち当期正味財産増加額)			(20,652,246)
負債及び正味財産合計			136,392,826



平成18年度 マルセン3号

発行日／平成19年3月

発行所／財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団

所在地／〒700-0031 岡山県岡山市富町2丁目4番4号

電 話／(086) 214-3585 ファックス／(086) 214-3583

URL <http://www.marusen-zaidan.or.jp/>

(本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています)